

# 千葉県国土利用計画地方審議会第2回国土利用計画調査検討部会 議事録

開催日時：平成29年4月17日（月）  
午後2時00分から3時50分  
開催場所：ホテルプラザ菜の花  
4階 特別会議室

司 会	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから千葉県国土利用計画地方審議会第2回国土利用計画調査検討部会を開会いたします。</p> <p>私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、事務局、政策企画課地域政策班の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、政策企画課副課長の榎田より御挨拶申し上げます。</p>
榎田副課長	<p>政策企画課副課長の榎田でございます。本日は大変お忙しい中、第2回国土利用計画調査検討部会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>この部会は、第4次国土利用計画の評価、県土利用の現状と課題及び県土利用の課題解決に向けた方策等について、専門的かつ詳細な検討を行うため、設置した部会でございます。第2回目となる本日の議題は、第4次国土利用計画の評価案及び県土利用の現状と課題について等を予定しております。</p> <p>8月まで、毎月1回の部会の開催を予定しており、本日はその第2回目ということで、部会委員の皆様方には大変御負担をおかけいたします。国土利用計画は言うまでもなく、適切な県土利用を推進するために、重要な計画でございます。10年間に渡る長期計画であり、また、少子高齢化に伴う人口減少を迎えるにあたって、国土利用計画をどのように策定していくかということは、課題がいろいろ多々あるかと思えます。私共事務局、ここに集まっている庁内関係課で力を合わせて、計画の策定に向けて尽力してまいりますので、御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>
司 会	<p>続きまして、お配りしております資料を確認させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 会議次第</li><li>・ 部会委員名簿</li><li>・ 座席表</li><li>・ 資料1 第4次国土利用計画の評価（案）</li><li>・ 参考1 土地利用の現況に係る情報</li><li>・ 参考2 県全域及びゾーンごとの地価の推移</li><li>・ 参考3 新潟県土地利用計画</li><li>・ 参考4 千葉県国土利用計画－第4次－</li><li>・ 参考5 千葉県土地利用基本計画書</li></ul>

	<p>・参考6 千葉県国土利用計画地方審議会国土利用計画調査検討部会設置要綱</p> <p>以上でございます。不足等ございましたら、事務局の方へお申しつけください。</p> <p>なお、本部会は、お手元に参考6として配布してございます設置要綱第4項の規定に基づきまして、公開することとされております。また、部会の議事概要につきましては、同設置要綱第8項に基づきまして、後日公開する予定ですので、御了承願います。</p>
司 会	<p>では、次第に従いまして議事に移らせていただきます。ここからの会議の進行につきましては、千葉県行政組織条例第33条第7項で準用する第32条第1項の規定によりまして、部会長にお願いしたいと思います。それでは、池邊部会長よろしくお願いたします。</p>
池邊部会長	<p>それでは改めまして、新体制にもなったということで、年度初めのお忙しい中、ありがとうございます。</p> <p>この会議は毎月ということで、今お話があったように、とりまとめまで少し忙しい部会となっておりますけども、どうかご協力のほど、よろしくお願いたします。</p>
池邊部会長	<p>それでは、さっそく議事に入りたいと思います。</p> <p>はじめに、本部会への「報道関係者」及び「傍聴者」の参加について確認します。本日の部会に、「報道関係者」及び「傍聴者」は参加していますか。</p>
司 会	<p>いらっしゃいません。</p>
池邊部会長	<p>それでは、議事に入らせていただきます。</p> <p>本日の議事（1）と（2）ということで、「第4次国土利用計画の評価案」「県土利用の現状と課題について」と、二つございます。</p> <p>事務局の方より一括でご説明したいということをお願いしておりますので、さっそくご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（説明）</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ご説明ありましたように、全体として地価は下げ止まっていると。</p> <p>私も先週、国土交通省の土地白書の説明を受けたのですが、全国で初めて下落から4ポイントの増加ということで、千葉県内でも被災した香取・東総のところは、目標にはもちろん達していないけれど、とどまったという感じがします。この先、私も熊本とか行っているんですけども、やはり今はオリパラに向けて、関東に投資額、資本や開発も集中してますけれども、心配だという気がしています。</p>

	<p>また、土地利用については、すべての地域で、目標と異なる形で推移している形でしたので、もちろん目標というものはある種、理想みたいなものかも知れないですけど、そろそろ地に足が付いてある程度実現可能な部分とか、なぜ目標が達成できなかったのかというところあたりも、次の部分ですけど、きちんと把握しておかなければならないと思います。</p> <p>また、新潟県の土地利用計画の話、統合するというところで、前回、統合するという形でご説明があったかと思いますが、具体的に統合したものがどんな形のものなのか、皆さまにも内容がわかりやすいということと、新潟県のものが今のところ最新となっています。新潟県は長岡技術大学が、率先して土地利用にも優秀な研究の先生がいらっしゃいまして、様々な試みをしていらっしゃいます。もちろん農用地もあり、海岸部もありということと、千葉が参考にするには心強いと思います。</p> <p>それでは、皆様方から前回の宿題に対する再質問でも結構です。まずはそのあたりから、何かこれに関するご意見、ご感想、あるいはデータが意図していたものとは違うということがございましたら、参考1, 2, 3につきまして、何かございますでしょうか。</p>
志賀委員	<p>まず、参考1でそれぞれが個別法に基づくデータは、それぞれのところでやっているが、それを千葉県の独自性や部門間を跨いだものはないという理解でよろしいでしょうか。</p> <p>もう一つは、新潟県の土地利用計画の目次構成ですが、具体的にこういうものを目指していけば良いのかがわかったのが良かったのですが、この部会として千葉県版の目次は、だいたいどのあたりで、どういう風に示されるのか、新潟は参考になると言っても、そのまま新潟を千葉に変えただけというわけにもいかないでしょうから、どのような形で進んでいくのかという点をご説明いただければと思います。</p>
池邊部会長	<p>それでは今のご意見、ご質問に対するお答えはどうでしょうか。</p> <p>現況の情報は、GISでやっているものもあり、PDFでやっているものもありということと、LUCKYに載せるときに少し合わせた形で、土地利用計画を作っている形なのですか。</p>
事務局	<p>土地利用の現況に係る情報につきましては、土地利用基本計画図を策定した時に、データを国に提供し、LUCKYに反映されている。審議会で審議いただいている五地域の変更につきましても、国に図面を提供し、更新していただいております。</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>LUCKY上で図面とか見る機会ってないでしょうか。LUCKYを活用したこととか。</p>

志賀委員	見たことはあります。
池邊部会長	新潟県の方は目次だけを見ますと、委員おっしゃるように、割とどこでも通用する感のあるものにはなっているんですけども、どちらかというところそれぞれの諸課題、次回やろうとしている県土利用の諸課題の1, 2, 3, 4とか、県土利用の基本構想のところあたりが、新潟県で言っている4つ、これは比較的、日本全土に共通するような内容で言っているんですけども、このような目次で良いのかという部分を次回以降、素案のようなものがいつ頃出てくるのかということですか。
志賀委員	委員の皆さんなり、事務局のそれぞれが、共有できていて、すんなりこれですねという話なら良いと思うんですけども。
池邊部会長	皆さん、今日初めて見てらっしゃると思うので、事務局の方としてはスケジュール感とか含めて、合体した目次構成が出てくるのはいつ頃くらいを目途に考えていますか。
事務局	そちらにつきましては、スケジュール等を含め、まだそこまで固まっておきませんので、内部で調整しまして、次回以降お示ししたいと思います。
池邊部会長	ありがとうございました。 今の新潟県のように、合体するというのが、部会を置いた一つの意味でもあるわけですけど、そのあたりについて、委員の先生方、何かご意見がありますでしょうか。
大江委員	合体案は良いと思うんですね。 無駄を省くという点では問題ないと思います。
大江委員	参考2で地価の推移を示していただいているんですけど、最近ここ数年は上昇傾向にあるということなのですが、特に都市部で上昇しているんですけど、この理由っていうのはどういうことなんでしょうか。先ほど部会長の言われたオリンピックの話とか、そういうこともあるんでしょうし、わかっているんでしょうか。
池邊部会長	道路と物流の関係とかいろいろあるかと思いますが。
中村委員	千葉県下で見ると地価が上昇している地点もあれば、下落している地点もあるというのは、ご承知のとおりだと思うんですけど、主に大きく上昇しているのは都心の工業地として、船橋ですとか市川ですとか内湾の工業地が大きく上昇しています。弱まってはいるんですけども、一因になりましたのが、物流施設とか、そういった自分の工場というところではなくて、投資目的で取引されている工場地の地価がすごい上がったということで、高速道路で便利な湾岸地域が主に上がっているという感じですか。

	<p>そして、住宅地の地価は、オリンピックが千葉県に影響しているかと言うと、それほど影響していないのではないのかなと思うんです。東京のマンションですとか、3倍程度になっているところもあって、これはまさしくオリンピックだと思うんですけども、千葉県の地価の上昇がそれかと言われればそうではなくて、工場地では10%の上昇を示したところがあるんですけども、住宅地ではそうではなくて、大きいところでも6%台くらいの上昇を示して、それが景気回復に伴うものや、いろいろな要因があるのかなと思います。</p>
岡委員	<p>関連した質問です。現在の状況はリーマンショックから徐々に回復していて、ショック前の状態に戻りつつあるという理解でよろしいですか。</p>
中村委員	<p>リーマンショック前に完全に戻ったかと言われれば、完全には戻り切れていないということですので、例えば工業地、千葉市の工業地で言わせていただければ、リーマンショック前に比べて今10%減といったところまで戻りつつあるといったところです。</p> <p>国土利用にどういう影響をもたらすのか。</p>
岡委員	<p>千葉県も、全国的な傾向と同じトレンドをたどっているとみることができでしょうか。</p>
中村委員	<p>日本全体というよりは、首都圏のトレンドと思います。</p>
池邊部会長	<p>日本全体としては、一昔前から空き家、空き家と言われていたのが、今度は空き地という話が変わっていて、国交省なんかも、任意の先生からもそういった話が出ていて、それは千葉県も然りだと思いますし、農業がしっかりしているところは良いんですけども、そうじゃないところについては、オリパラでもないんですが、爆買いの人たちの余波みたいなものがありますけど、それは我々としてはあまり余波として見てはいけない、今はあるけれども、これからの予測の中としては、そんなに需要が高くなることはあまりありえないのかなという感じがしているので、スキームの関係で少し変わっていくかもしれませんが、実際のプレイヤーがそんなに増えていくかと言うと、そうではないかもしれません。</p>
池邊部会長	<p>それでは、参考の方は次回以降お話しがあった合体に向けて、先ほどあった諸課題を議論に乗せていくというお話でしたので、それと併せて、合体の方向性をもう少しずつ皆さんと議論していくこととします。</p>
池邊部会長	<p>合体すること、そのものについては、良いということよろしいですか。</p>
岡委員	<p>前回参加できませんでしたけれども、合体に関しては、一番使いやすいもの、施策を練りやすいものということが一番のゴールです。事務方の方々もそういうご意見だと思います。賛成いたします。</p>

池邊部会長	<p>行政の方だけではなくて、国土利用とか土地利用は県民とは少しかい離があるのですけれども、合体することによって少しは県民の方々にも読んでもらえる、こういう風な状況なんだと見ていただけるようになると良いかと思います。</p>
池邊部会長	<p>それでは、ご説明のあった資料1の評価について、前半は前回と同じとすることでしたけれども、ゾーン別のところを詳しく23ページ以降ご説明いただいたかと思うんですけれども、いかがでしょうか。</p>
志賀委員	<p>一つは個別的な確認ですが、32ページで森林面積が南房総については、落ちただけけれども、また上がってる。それについては、ご説明の中で、造林事業費の増加による森林整備が考えられるという分析ですが、24年から25年に200ha以上増えている。そうすると造林と言っても、森林の中で再造林や林種転換で動いている分には森林面積自体は増えないから、例えば農廃地造林や原野造林が、単年度で200ha千葉県で増えるかと言うと、それは考えにくい。森林課とご相談されて、統計的なことをもう一回確認いただいた方が良いという点が第一点です。</p> <p>それから、第二点目は、全般的な評価の視点に関わることなんですが、モニタリングの指標が決まっています、それで評価しているのですけれども、今回の評価にどうこう言うものではないんですけれども、次回以降、こんな観点もあるのかなということで申し上げたいと思います。</p> <p>ゾーン別に出していただくと、ゾーンごとの特徴は、かなり千葉県に住んでいても違うんだという感じがするんですが、その割にはあまりクリアに違いが見えない。それはどういうことなのかなと思っていますが、統計で属地統計と属人統計があって、四地域区分はもちろん属地で、千葉県の中の土地の話ですね。ところが属人統計では、千葉県に住んでいる人や事業体の活動に関する統計の部分と、例えば全国あるいは国際的な市場を対象とした流れの中で、人や物流や情報が動くという問題があって、空港ゾーンや圏央道ゾーンの情報・物流の動き方属地的なところにはすぐには表れないけれども、非常に千葉県経済や将来のことを考えた時には重要な意味を持つてくるという側面が大きいと思います。そうすると、指標やゾーンを見ていくときに、重層的で立体的に見ていくことがますます重要になってくる。第4次計画の評価というより、資料を見て将来的にそういう視点が必要なんじゃないかと思いました。</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございます。 一点目の森林の話ですが、森林課さん何かありますか。</p>
森林課	<p>数値は確認させていただきます。</p>

大江委員	私も同じ疑問を持ったのですが、森林面積といった場合に、これは地目で言っている森林なのか、概念自体を教えてください。
森林課	地目ではないと思います。登記簿上の地目ではなく、五条森林だと思います。
岡委員	全般に農地と森林面積が下がる中で、南房総は森林が上がっていることについて、33ページ一番下、造林補助事業を増やして森林整備が行われたことによると書いてあります。これはこのゾーンで特別な何か施策が行われたということですか。
事務局	モニタリング調査の指標で、造林補助事業費というものがあり、南房総ゾーンでは、21年度から大幅に増額されているというような結果が得られております。これが連動しているのではないかとの推測によるものです。
志賀委員	この時期の造林事業費は新植ではなく間伐が多いと思いますので、南房総の数値の変化に大きく効いてくることは考えにくい。
森林課	減少は鈍るとは思うんですけど、そう急に増加するのは、間伐しても面積は増えないので。
池邊部会長	他の要素が影響しているのか、統計的な問題なのか。 大江先生がおっしゃったように登記簿上の森林であれば良いのですが。  属地的か属人的かというところの話は、今まででも出てきているところかなと思いますし、農業の方なんかは属人的な、農業生産額などはそういった形で出てきているのかなと思いますけれども、土地利用という意味ではちょっと違うかな、と。  他に何かございますでしょうか。 特に、今お話しがあったような、今回のモニタリングというところでは、それぞれの項目にある指標で見るしかないのですが、今後この指標だけで良いのか、何か追加するのとか、その辺によって見える化というのが平面から立体的に土地利用が見えてくるというようなところが、ご指摘のところをうまくするとそのような形が見えてくると思います。
中村委員	目標値というのはどういったものを参考にして決められたのかちょっと知りたいなと思ひまして。各市町村から上がってきたものをまとめて目標値にしているのか、それとも経済情勢とかの参考資料をもとに目標値を定めているのか、その辺を教えてください。
事務局	目標値は各市町村の数値の合計というものではありません。千葉県内の

<p>池邊部会長</p>	<p>市町村で国土利用計画を持っているところはありませんので、県で独自に算出したものとなります。この算出の方法については、トレンド、農地や森林の減少傾向に対して、どの程度食い止めることができるのかというようなところを庁内で調整しましてご提示しております。</p> <p>日本全国で人も減っている、土地利用としても空地だの空き家だのという中で目標値が今後も、農地も戻します、住宅地も増やします、工業用地も増やしますっていう話はもちろん無理な話だったので、でも無理だからと言って目標値を大幅に加工することはできないというのは、どこの県の状態ではあると思うのですけれども、ただ逆に言えば、いつ舵を切るかと言うので、以前にもたまたま、東大の浅見先生と私と都市マスのいわゆる逆都市化みたいな話をどう行けるのか、要するに人口減、今までは拠点と言っていたのに、急にそれが成り立たなくなったり、実際は道路ができたのに通過の方が多くなってしまったり、大規模商業施設があるところではピンポイントでぽっと伸びるけども、その間のところは便利になったはずなのに人が住んでないっていう状況のところ、千葉の圏央道をはじめとして今後そういうような状態だと思いますし、この前、アスクルの事故なんかみたいなのがありましたけども、これから先物流ですと、アマゾンの方式なんかは、全世界であるんですけど、中には絶対人に見せないっていうくらいのシステムがあり、人が少なく、床もなるべく少なくして、それでなおかつ、24時間以内に届くっていうような方式をやっていたりもするので、それから、アスクルの床でも使われていないところが実は多かったというのが、火事のところででてきていると思うので、物流の施設にも見直しが入るのかなといったところで、そのあたり、時代をどう読んで、どう県として舵を切っていくところ、議論していかないといけないと思います。</p> <p>各市町村さんとしては、そうは言ってもっていうことで、それぞれ観光だったり、物流だったり、住宅だったり、企業施設だったりというところで、どんどん人を呼びたいってところは確かなんですけど、県全体としてどう俯瞰するかというのを考えていかないといけないと思います。</p> <p>では、他に、今のゾーン別とか、あるいは指標、モニタリングの在り方等につきまして何かありますでしょうか。</p>
<p>志賀委員</p>	<p>先ほどの目標の設定に対する答えで、県の方で独自に決めているという話ですが、市町村レベルでの土地利用計画は千葉県では策定されていないということで、他に景観計画や環境計画など様々な市町村計画がある訳ですね。そうすると、県の中での総合計画や各分野別の振興計画を立てられていると思うんですが、それとの関係で、目標数値が県の中でどう活用されるかという点は重要かと思うんですが、一方での計画が市町村で土地利用計画そのものではないけれども、いろんな形で上位計画として活用できるという視点が必要だとすれば、先ほどの構成の話とも関わって、そういうことも配慮しておく必要があるのかと思います。ただ、そうなる</p>

	<p>と研究者というよりむしろ行政の方の立場の見識が必要だと思うので、今後の検討の素案の中でそういった観点から各課で連携していただき、市町村の考え方も把握していただき、委員としては研究的な視点からの意見は言えるのかなということじゃないかと思ったりしたのですが。</p> <p>今の話で、基本的には総合計画とかはそのものがあまりすぐに土地利用に反映できないので、都市マスが中心になりますが、千葉県の全域が都市計画区域ではないですし、もちろん森林、農地区分もありますので、そうなるそこら辺がわからないままになる感じはありますね。</p> <p>たまたま私は青梅市で、青梅はご存知のとおり、東京の中でも森林が非常に多く残っていて、林業としてもまだ成り立っているわけですがけれども、この前まで都市計画学会の学会長をいらした中井先生が、都市マスと緑の基本計画を一緒に作ろう、と。緑の基本計画っていうのは、通常は都市計画区域の中の公園緑地が中心なのですが、青梅の場合には今回の都市農地法などを早めに取り入れた感じもあるんですけども、そんな形で合体して、市民委員の方も同じ農業従事者、林業従事者の方が都市マスの議論に参加し、逆にそうでない方も森林事業の話だとか農地の話にも入ったみたいな話もありました。</p> <p>基本的には人口統計に基づいて算出しているということですよ。</p>
事務局	<p>確認させていただきます。</p>
池邊部会長	<p>都市地域だとか住宅地はそれで良いのだと思いますが、農用地を維持できたら維持できなかったというのは、どういう根拠に基づいて、農用地の目標値、森林地域の目標値を置いたのかっていうのは、我々もおさらいする意味でも教えていただきたいと思います。</p> <p>せっかく県各課さんいらっしゃってるので、もし何か具体的な施策等、ご意見があれば、いかがでしょうか。</p>
関係課	<p>ー特になしー</p>
池邊部会長	<p>大江先生、農業従事者が減っても、効率が良くなっていて、生産性が高くなっているとかどうでしょうか。</p>
大江委員	<p>そうなれば良いんですけど、そうなっていないんですよ。それで農地を集約化しようとしているんですけど、それが上手くいっていないんですね。</p> <p>目標値の設定っていうのは難しいとは思いますが。行政的にやっぱり下がって欲しくないっていう期待感と、そうあるべきだっていうべき論ってのがあると思うので、行政的な判断なので、ある程度お任せするしかないと思います。</p>

池邊部会長	我々が挙げても、編成本部でそんな下を向く目標はダメだと怒られてしまうと思うので。
大江委員	統計的に予測すれば、トレンドをなぞっていくので、傾斜は急になるじゃないかと思うんですけど、それが行政的に受け入れられるかっていう判断になると思います。
池邊部会長	今回も知事続投だったんですけど、何か新しくこういうところが、のような、力を入れてみたいなのはありますか。
事務局	特にはないです。
池邊部会長	道路の話とかも終わってしまって、次のタマを仕込んで、サッカーを誘致した幕張のところも終わったので、次に何かあるのかなと思ったのですが。
岡委員	土地利用区分のその他の部分は、元もとは幾つかの土地区分だったところに開発行為が入り一時的にその他に編入されることがあると理解しています。千葉県は房総の山岳エリアに続き、例えば大網白里市とか茂原市のような水田地域が広がります。今は圏央道ゾーンに入っているんでしょうか、このゾーンの代表的な景観の一つが、水田地帯に住宅と小さな森、この3つの基本構成がエリアを特徴付け、田園エリアを特徴付けるフクロウのような動物も生息する。最近はそうした森をソーラーパネル事業用地に転換する事例が頻繁に起こっています。ある日、久しぶりに出かけると8000m <sup>2</sup> の森の大半が皆伐されソーラーパネルが敷き詰められている。森があちこちでなくなり、さらにソーラーパネルの今後の衰勢は不透明でもし売電価格が下がれば放置される、あるいはメンテナンスのコストもかけられなくなってしまう。老朽化した液晶パネルによる土壤汚染の負の遺産に変わっていく。どう対策をするか、負の遺産になった場合を考えた視点は、長期トレンドを見る場合必要だろうと思います。
池邊部会長	私も4年くらい前に県で初めて40haのソーラーパネルを立てたときに、同じような議論させていただいて、要するにアセスにも引っかけられないし、何にも引っかけられないので、その時に私もお話ししたのは、売電価格に応じて、液晶パネルも6～7年で更新していかなければならないのでダメですし、それを下支えしているコンクリートの部分も含めて放置されると本当に負の遺産ということで、そういう空き地が千葉の場合には一早く、私も上から、国土交通省のあおぞらに乗せていただいていたこともありますが、群馬とか茨城とかそういうところは割と小規模なものはたくさんあるんですけども、千葉の場合はドカンと上から見るとすごく光ってて、貯水池かなと思ってよく見て近づいてみるとソーラーパネルだったりとかってということで、その当時、さっきの空き

	<p>地の議論じゃないですけども、戻すっていう、更地に戻すじゃないですけども、せめて土のある状態に戻していただかないと、森に戻れない、原野にすら戻れない状況というのがあるので、その辺が今回のトレンド、今まではそれは増えますよ、太陽光発電のソーラーパネルはどんどん増えますよっていうことで良かったかと思うんですけど、これから10年ってなるともうダメになってくるところが確実に出てくるのかなって思いますので、そのあたりも少し注意しておかなければならないと思います。</p> <p>他に何かありますでしょうか。</p> <p>事務局の方で何か次回は次期計画に向けた課題、34ページのところを今回の統合した形での案を次回お出しになるということだったんですけども、それまでに何かこういう部分は入れておきたいとかあれば。</p> <p>今、まさに岡委員がご指摘になってところは、その他区分の土地利用の把握というところで、これは把握するだけじゃなくて、今後どうなるのかっていう推移を含めた予測が必要になるかなって気がします。</p> <p>最後から2番目の海洋のところですけども、千葉県は沿岸域の総合的管理みたいなものは。広島とか結構頑張っているんですけども。</p>
事務局	定めておりません。
池邊部会長	房総半島があり、防災の問題もあるので、沿岸域の管理の話っていうのは、次回は入れていった方が良いのかなって思います。
岡委員	房総半島の特に外房の方で、陸上や沿岸風力発電の情報はおさえておく必要があります。電力は生活基盤をなすものですが、沿岸域に海鴨類などを中心に、いろんな鳥が来ますし、陸上でもワシタカ類が風力発電のファンで切断されて落ちる被害が全国的にとりわけ北海道などで多く、房総半島もこうした鳥たちの生息地や渡り中継地でもあり、特に遠浅の房総半島の沿岸では設置プランが起きやすいと思いますので、自然環境の面からそのあたりについても海岸域を見ておくのは必要だと思います。
池邊部会長	<p>風力発電はどこが管理してて、今どこにどれくらいあって、建設計画がどれくらいあるかって、どこが把握しているんですか。</p> <p>各市町村に降りていると思うんですけども、集約して見ているところは。</p>
事務局	<p>恐らく商工労働部だと思います。</p> <p>確かにおっしゃるとおり、銚子の方とか、いろいろ建ってますから。</p>
池邊部会長	太陽光も経済産業省が東日本大震災が起きたときに、太陽光を工場立地

	<p>法の中に入れるかどうかという議論を、私も入らせていただいたんですけども、経済産業省としては、あれだけ大きな東日本大震災が起きた中でソーラーパネルをどんどん作る、あの頃、いろんなものを被災地に作るという話もあったので、結果的にはそれを引いてしまったので、ソーラーも風力も経済産業省、商工労働部が情報としては受けるということですね。属人も何も無いって感じですよ。どこの市町村から申請が上がっているというレベルですよ。</p>
志賀委員	<p>お話を聞いていると、「その他」の位置づけが消極的なイメージを受けます。その中でも意味付けをすれば、土地利用や環境的に重要なものがあると思いますが、五地域区分の中に入ってこないがために、何となく位置付けに困るようなものがあると思います。ですから、それをどう位置付けていくか、景観や環境、あるいは地域住民の生活空間の中でどうかという視点を入れることも検討して良いかと思います。</p>
中村委員	<p>耕作放棄地の有効な転換っていうのも、その他に入ってくるんですかね。耕作放棄地を住宅地にできるくらいだったら、耕作放棄地にはなっていないと思うので。</p>
池邊部会長	<p>そうですね。耕作放棄地を太陽光発電に変えると、その他の中で変わるくらいですね。 太陽光発電は土地利用上は何でカウントしているんですか。その他以外の細分化したものは。</p>
事務局	<p>その他の細分化はありません。</p>
池邊部会長	<p>耕作放棄地がたまたま出ましたけど、県土の有効利用の観点から他の用途への有効な転換を図っていく必要があるっていうのは、太陽光とかも有効な転換だってことですよ。</p>
事務局	<p>それも一つの可能性として考えています。</p>
池邊部会長	<p>放置されているよりは良いってことですね。</p> <p>他に何か新しいこれから取り入れていきたい話があれば。特に最後のところに、区分横断的な課題に関する施策の充実ってところで、一定の成果があったが、人口減少・高齢化や防災減災の視点からの国土利用、国土利用管理については、計画への記載や施策等が不足しているとあります。 今回、各課さんに出ているのは、区分横断的な部分を含めて、全体で問題意識だとか、そういうものを共有する必要性があるということ集まっていたと思っていますので。</p>
志賀委員	<p>これに関しては、どういった柱を立てるかっていうのが非常に重要で、</p>

	<p>現在の計画では二つの柱が立っており、この二つは引き続き、表現は若干変わるのかもしれないけど、重要だと思えますが、この他にも加えるべきものがあるかという点が今後の議論に重要かと思えます。持続可能なまちづくりは都市計画区域を重点に、そうでないところも含めて、持続可能なまちづくりの課題はあると思えますが、残土問題などは君津や市原を中心にした問題だろうと思うんですが、南房総でも鳥獣害の問題など、今、何が千葉県の中で横断的な問題として取り上げるべき重要な問題なのかという点に関しては、我々も知恵を絞り、各課が全体の中で、横断的な課題をどのように考えているか、次回以降、示していただきたいと思えます。</p>
<p>岡委員</p>	<p>こうあったらいいなと思ひ描くのは、各自治体単位で森林面積が確保され、それが個別ユニットではなくて、コリドーというか回廊で結ばれば、野生動物にとっては面積以上に機能を持ち、広域に利用できる森林空間に変わってくる。とはいうものの、例えばキョンのような外来動物の放獣問題や、農業被害を出すイノシシなどによる、一次生産者への負の影響がありますので、侵攻をどう食い止めるかとの兼ね合いもあり、難しいところです。野生の動植物が身近に存在することは生態系サービスの一つとしてとても大切と思ひますし、人間の心の面にもプラスの影響を与えと思ひますので、千葉県の今の現状はいまだあちこちに素晴らしい自然が維持されるなかで、どんどん虫食いが進行もしている状況なので、これを10年20年放置していると千葉県の良さは恐らく失われるだろうと思ひています。自然環境の質を保つ施策が必要です。</p>
<p>志賀委員</p>	<p>国有林で実施している保護林をつなぐ緑の回廊は、地図上で指定してお金がかかりかからなくて、宣伝効果としては良いのかなと思ひます。千葉県で貴重な緑や森林、谷津田をつなぎ見える化して、開発規制まではなかなか行かないけれども、こういう生態的にも貴重なところに太陽光パネルを設置して良いのかという雰囲気づくりはあるのかもしれない。</p>
<p>岡委員</p>	<p>キーになるエリアに開発行為が起こった場合に、それを是正させるような、ある程度強制な措置は必要だと思ひます。それをどういう風にうまく組み込んで行くか、地主さんにも良いことだと認めてもらう、保全すればこんな良いことがありますよっていうような、ご本人たちにとってもギブアンドテイクのテイクの部分が見えてこない、所有権が優先され、審議会のほうに土地利用を変更しますとあげられて認めざるを得ないようなことになりますので、根元の方からどう制度設計していくかというのが必要だと思ひます。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>今までは、緑になっている部分を回廊だって話だったんですけど、森林地域から丘陵を経て、流域単位で海まで含めて、海で海水浴とかそういうので食べてる市町村も多いわけですから、そういうところを守るために森を守るみたいな、東日本大震災で森と海の関係は有名になったので、もう少し海の部分と平地の部分と農地の部分と里山があって、その上に森林が</p>

	<p>あるっていう縦の素晴らしいところはもうちょっと重視しても良いと思います。</p>
池邊部会長	<p>防災の部分っていうのは、何か新しい千葉県の計画みたいなものは、この間には。</p>
防災政策課	<p>国の強靱化っていうのがありまして、千葉県でも29年1月に千葉県版の国土強靱化地域計画を策定したところです。ただ、土地利用とどう関係するかはなかなか難しいところだとは思いますが。</p>
池邊部会長	<p>情報提供いただけると良いかなと思います。</p>
	<p>県の方にお伺いしたいのですが、佐倉とかインターチェンジの周りだけ物流施設などの規制を緩める制度は今もありますか。</p>
事務局	<p>都市計画制度でいうと市街化調整区域に地区計画を策定して規制緩和を図る制度はあります。</p>
池邊部会長	<p>普通だと地区計画というと住宅が張り付いているイメージがあるんですけど、佐倉の場合には、物流とかが張り付いた計画的な市街地を想定して、結果としてはうまく張り付いていますよね。</p> <p>県内の他の市町村でもやっていたりしますか。</p>
都市計画課	<p>物流に特化したところでは、流山とかあるんですけど、市街化調整区域の地区計画の運用基準としては、12市町村で定めている状況でして、市街化調整区域の土地利用を図っていかうと考えている市町村は増えてきています。</p>
志賀委員	<p>道路に関してですが、この中では高速道路や国道、県道がメインに想定されていると思うんですけども、スイスでは歩道散策路法というのがあって、農道・林道とはまた違う地域住民が森林地域に親しむ基盤となっています。日本でも北海道や神奈川ではフットパスに対する取組みが進んでいますが、その他にトレイルランニングやマウンテンバイクは標高差何千メートルが取れるといった従来の公共交通機関、車以外の交通手段が土地利用に結びつくことによって、レクリエーションやレジャーの幅が広がったり、人と自然の関わりが変わってくるようなことがある。県の所管もそのような分野に関しては、はっきりした担当はないと思いますが、森林地域に関しても林道や作業路は木材生産や森林整備のための補助制度がありますが、実際はかなりいろいろと利用目的が重なっていたりして、多目的利用やネットワークとしてはつながらないのかなって思います。</p>
池邊部会長	<p>県内では何かそういうのはありますか。</p>

志賀委員	<p>神奈川と北海道はフットパスのガイドブックが出版され、トレイルランニングやマウンテンバイクは長野ではボランティア団体が地元と連携した活動を展開しています。ただ問題も一方では起こすこともあり、行政や地元との連携が今後は重要になるかもしれません。国際的にはワンダーベージュに関するガイドブックなども数多く出版され、そこに紹介されている熊野古道や高尾山などに外国人が押し寄せるということもあるようです。</p>
池邊部会長	<p>新潟の計画にどこまで反映されているかわからないんですけども、長岡のは国営公園にトレイルランニングを入れることで、整備から管理までトレイルランニングの方々のイベントで、遊びに来る方も含めてやられているので、管理の在り方の部分にスポーツ振興や新しいレクリエーションみたいなものが国土管理の一端を担う、と。結構トレイルランニングの方々は、自然保護とかにも造詣が厚い方が多いので、テレビで扱わせていただいたんですけども、トレイルランニングの方が林地の中に入って、実際撮っているカメラの方に「道見えるでしょう」とか言われて、獣道が見えるでしょうと言われていて、実際は何も見えないみたいな、道なき道、自然の地形や獣道なんかにトレイルランニングのコースを切り開いていく、切り開き方も、擬木の整備をしちゃうような話ではなくて、自然に近いような形で。あれはたぶん、たまたま国営公園だから入れやすかったのではないかと。</p>
岡委員	<p>関連して、私は手賀沼から来ておまして、手賀沼は長く水質がワースト1、それを何とかしたいといろんな事がやられてきて、最後、別な目的で東京都に水を導水するために、手賀沼導水事業が国土交通省で始まり、その流水で水質は改善され、その事業のなかで周辺道路ができました。その道路はなかなか殺風景で、印旛沼・手賀沼県立公園にもあたるので、もっと人を呼び込む仕掛けを作れば良いんですけど、それもなく、沼の景観も殺風景になって終わってしまっている状況があります。例えば先ほどお話に出たスイスとか、いろんな仕掛けで100年200年かけて、みごとに成功している。東京都の場合は高尾山がミシュランの星をもらっている。外人観光客がとっても多い。インターネットでみんな発信するんだろうと思います。それでリピーターやビギナーが入ってくる。千葉県ではその観点から発信者が少ない、自然の財産は持っているが、その仕掛けまで心配りできていないというところがあると思います。例えば南房総ゾーンなども素晴らしい一方で、それをうまく活用できていないところがある。今後、産業構造も変わっていく中で、まだ持っている資産を活用するのは、各市町村単位だけで考えるのは無理なので、横断的な県立公園域などからやっていくということはあることだと思います。モニタリングとは絡みませんが、非常に大事だろうと思います。</p>
池邊部会長	<p>今回は課題出しの34ページのところをふくらます、それと議論になったところを、今日と同じような参考資料みたいな形で。特に算出根拠のところは一回ちゃんと共有しておいた方が良いと思います。</p>

池邊部会長	あとはモニタリングの指標についての議論は。
事務局	次の国土利用計画策定後に、また、調査検討部会を開催させていただいて、その中で議論いただきたいと思います。
池邊部会長	もちろん、議論はしてて想定はするけれども、かっちり決めなくて良いってということですね。
池邊部会長	<p>あとは、志賀先生からお話しのあった、目次の中でどういうものをテーマ出しをして、諸課題のところとリンクしますけど、4つなのか5つなのかってということと、今後の新しい話を含めて、見据えなきゃいけないものってところですかね。</p> <p>私も県の仕事を時々してるんですけど、新潟県さんなんかには比べると千葉県さんっていうのは、太陽光にしても何にしても早く来てると思うので、高齢化が早く進展するのと同じように、まだ新潟県さんはそこまでの対応策を見なくても良いようなものが、千葉県の場合にはワンラウンド先を行っている、少子高齢もそうですけど、土地利用として、さっきの太陽光も含めてですけど、次の5年後では売電価格が合うのかどうか、放置されるのかどうかっていうところも出てくる話だと思うので、このあたりも先取り感っていうんでしょうか、千葉県の国土っていうのは、千葉県のことを全部やると日本列島のことを全部できるっていう話があって、ニュータウンや物流施設みたいのもあるけれども、農地もあるし、限界集落まではいかないけど、人口がかなり減ってしまったような地域もある。そういった日本全国で出てくるだろう問題に千葉県の国土利用として何を見ていけば未然に防げるかとか、対応策、施策がなかなか少ないって言われてるところを考えられれば。</p> <p>その他のところで、何か千葉県以外、県内はもちろんですが、新しい取組をやっているところがもしありましたら、先生方、次回以降教えていただければと思います。</p> <p>他に先生方、何かありますでしょうか。次回までの宿題とか。よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>今回、二回目の会議ということで、評価結果ご覧いただきご指摘いただきながら、次に向けた現状の課題に踏み込み始めて、先生方からご意見、アドバイスいただいたところです。ご指摘のとおり、一口に国土利用と言っても、市町村も関わってますし、庁内の各課も関わっています。次回に向けて課題を浮き上がらせて、整理整頓しないと先に進めないのかなと思いますので、先生方には今日もご意見いただきましたけれども、また途中でメール等でご意見伺う機会を設けさせていただくかもしれませんので、ぜひご意見をお聞かせいただければと思います。</p> <p>1か月の間でどこまで作業できるかわからないですけども、とりあえ</p>

<p>池邊部会長</p>	<p>ず洗うのが大事かと思imasるので、そこに向けて事務局としても頑張っていきたいと思imasるので、引き続きよろしくお願imasします。</p> <p>前回、そういうことでツールを作っていましたか、人事異動とかで使わずに次の会議を迎えてしまったので、ぜひよろしくお願imasします。すぐに委員の方からレスがなくても、メモ的に、事務局や他の課の方から手がかりになるようなものをいただくだけでも良いと思imasします。</p> <p>それでは、司会の方に進行を戻します。</p>
<p>司 会</p>	<p>ご審議いただき、ありがとうございました。</p> <p>次回は5月25日木曜日午前10時からとなります。</p> <p>以上をもちまして、千葉県国土利用計画地方審議会第2回国土利用計画調査検討部会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>